

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100611		
法人名	有限会社メディカル葉山		
事業所名	よなわグループホームやすらぎ		
所在地	長崎市岩屋町25-7 2階		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、系列のグループホーム、小規模多機能ホームと共に法人ビル内にある。元入院病棟を改装した事業所であり、今年は玄関横に寛げるスペースを作ったり、居室のドアに暖簾を掛ける等、家庭的な雰囲気作りに努めている。また、包括支援センターと連携して、キッズサポーターとの交流や囲碁将棋ボランティアを受入れており、さらに花屋と協力して“花育”に参加する等、地域交流に努めている。職員同士は率直に言い合える間柄であり、記録物の書式変更や担当制の導入等、職員自ら働きやすい職場環境づくりを行っている。また、職員が車椅子歩行やとろみ食の実食など利用者の視点に立った勉強会を企画・実施したり、両ユニットのケアマネージャーが利用者の情報から本人の持つ力を活かし、現状にあった介護計画を作成するなど、理念「家庭的な雰囲気の中で、安心した生活の実現をめざす」の実践に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、職員に周知している。理念の一部である家庭的な雰囲気はあるが、実践面でまだまだ努力する余地あり。	理念を目に付く箇所に掲示しており、ミーティング時等、折に触れて確認している。「家庭的な雰囲気の中で、安心した生活の実現をめざす」を実践するため、以前入院病棟であったため、いかに家庭的な雰囲気を作れるか追求し、利用者が安心して日々の生活が送れるよう、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等行事の案内をしているが、まだ地域に浸透しているとは言えない。ボランティアや近隣小学校との交流はある。	包括支援センターから地域の情報等を得ており、キッズサポーターや囲碁将棋ボランティアの訪問があり、利用者と交流している他、法人主催の夏祭りには近隣住民参加している。また、事業所は花屋と協力し、“花育”に参加する等、地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて、活かしているとは言えない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。	年6回、奇数月に会議を実施している。会議では、利用者の状況や行事の報告の他、防災防犯について毎回検討事項を伝えている。また、地域の情報交換の場となっており、サービス向上に活かしている。ただし、家族に会議への参加を呼び掛けているが、現在参加がない。	基準省令にも運営推進会議のメンバーとして利用者家族が謳われているため、会議に家族の参加ができるよう、声掛け等工夫・検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談を受けたり、したりするが、積極的に取り組んでいるというほどではない。	事業所は、各担当課に運営上不明な点を問い合わせたり、相談に乗ってもらっており、書類提出時には管理者が窓口に出向いている。また、担当課員が利用者の面会に訪れている。職員は行政から案内のある研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士でセンサーなど対策を考え、家族とも話し合いの場を設けて取り組んでいる。また、研修に参加し、学ぶ機会を設けている。しかし、車いすの扱い等不十分な点が見受けられる。	事業所は拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束や虐待はないか、声掛けやケアが利用者の行動の抑制に該当しないか等ミーティング内で話し合っている。職員は内部研修に車椅子歩行体験を取り入れる等、利用者の視点に立ち、職員の都合でケアを行わないよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、防止の意識向上に努めてミーティング等でも話し合いをしている。反面、一部の職員の態度が虐待につながりかねない面があり、必ずしも注意できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、制度について学ぶ機会はあるが、現在のところ制度を活用すべき事例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で話を聞いたり、お知らせしたりしている。	利用開始時に、相談窓口と意見箱の設置、仕組みについて説明している。利用者の様子を家族訪問時や電話、ホームだよりで報告したあと、要望がないか尋ねている。昨年、家族会を開催し、別日には事業所運営についても報告している。家族から食事支援について質問があり、業務体制を見直した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者ミーティングに参加して意見や提案・要望を聞いて、反映させている。	職員会議や日々の申し送り時など、職員は意見や提案しやすい環境である。特に希望休暇は連休取得も可能であり、シフト調整も含め職員が働きやすい環境を整備している。職員の意見から、ソファを配置し、リビングコーナーを設けたり、洗面台を車椅子のまま使用できるよう改装するなど運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足な面があ、一部不十分な職場環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会が多く取り組んでいる。一部職員のレベルの低さを訴える声もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学などの機会を増やし、サービス向上につなげてほしいとの意見があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や緊張を理解できるよう傾聴し、信頼を得るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・要望伺い、相談できる関係づくりに努めている。また、なるべく面会に来ていただけるようお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に訪問診療の医師を紹介したり、サマリー等の情報で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物のたたみやおしぼり、水やりなどできることをしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話など連絡をこまめに入れ、支援していただきたいことをなど伝えて、共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室やかかりつけの病院への通院など、ご家族に協力をお願いしたりしている。	センター方式を活用し、家族に利用者の生活歴を記入してもらっている。その後、利用者との会話の中から、情報を汲み取っている。家族や知人などの訪問や外出は自由である。法事や見舞いに向くなど、家族の協力を得ている。家族へ手紙を書く利用者もいる。新聞や雑誌の購読、美容室など、これまでの馴染みを継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやラジオ体操などで利用者同士で楽しく過ごされている。また、耳の遠い方などのコミュニケーションでトラブルが起きないように職員が間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから積極的に努めているというほどではない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ要望にこたえるべく、把握に努め、困難な場合、職員で意見交換し把握に努めている。。	職員は利用者一人一人に寄り添い、希望や意向の把握に努めている。会話が困難な場合は、筆談やジェスチャーを用いて思いを把握している。担当者制を活用し、衣替えや部屋掃除など居室での支援時に、より深く理解している。職員は、得た情報を個人記録や申し送りにて、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新聞を購読したり、使い慣れた身の回り物をもって来ていただいていたたりして努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を観察し、申送りや記録		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と話し合い、ご家族の要望を聞き、職員間で話し合い意見を入れて介護計画を作成している。	ケアマネージャーは受持ち担当職員と当日出勤職員と3ヶ月ごとにモニタリングとカンファレンスを行い、計画を作成している。各利用者ができることのチェック表を、モニタリングに活かしており、本人・家族の意見を要望を聞き、現状に即した介護計画となっている。状態に変化があった際は見直しを行い、同意を得て計画を実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・カードックスを利用して情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調が悪くなれば、医師や看護師へ報告し指示を仰ぐ。介護タクシーの利用などサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージ・訪問歯科診療の手配、ボランティアなどに来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診のできる医師を紹介し、説明し同意を得ている。他の医院の場合、家族対応で受診している。	本人・家族が希望する医療機関を受診することができる。現在、訪問診療を受ける利用者が多く、事業所上階の皮膚科受診には職員が同行しているが、基本的に家族が受診に付き添っている。受診結果はその都度家族から聞いており、薬は薬局の薬剤師が届けており説明を受けている。夜間緊急時の主治医との連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており状態の変化・薬の量など相談して取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報をすぐに送るようにしている。退院時、入院先のソーシャルワーカーと面談し情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・ご家族を交えて、今後、看取りまでを行うか、施設で対応が困難な場合、入院するか話し合っている。	「重度化した場合における重要事項説明書」を作成し、入居時に本人・家族に説明し同意を得ている。医療行為を伴う場合を除き、看取り支援を行っており、事例もある。現在、看取り支援に関する書類を作成中であり、看取り支援にあたり、家族、主治医と共にカンファレンスを行い、日々のミーティングでもどう看取るかを話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は医師に連絡して対応するが、訓練などの取り組みはいまだ不十分。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	訓練は、定期的に行われている。警備会社との契約により連携体制もある。	毎月、消防訓練を行っており、消防署立会いの総合訓練は3月に予定している。新人教育の中で消火器の取り扱い方法を説明しており、初期消火の重要性を伝えている。また、火災発生時には、警備会社からの応援も得られる。ただし、自然災害時の食料等の備蓄は行っているが、マニュアル等作成しておらず、訓練もこれからである。	火災に限らず、災害はいつどこで起こるか分からないため、自然災害に関するマニュアルの作成とマニュアルを基にした訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士、注意しあい言人格ご気分を損ねない言葉かけを心がけている。	職員は一人ひとりの尊厳について検討し、疑似家族として利用者と接している。本人の誇りやプライバシーを損ねないように、言葉掛けに気を付けている。トイレ誘導時には、羞恥心に配慮して声を掛け、入浴は同性介助である。個人情報事務所で管理し、職員の守秘義務も周知徹底している。写真利用の同意書も作成している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に話せる雰囲気づくりに努め、意思表示しやすいよう話を持ちかけて、対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、表情や言葉を観察し、この味に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を自分で選べる方は、職員が準備している。櫛で髪をすく、髭剃りなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が重い方が多く準備・かたづけは職員が行っている。調理は委託業者が行い、給食委員会で苦情や要望を伝えている。	調理は委託業者に依頼し、調理室で調理しており、職員が検食している。給食会議には委託業者が同席し、利用者の好みなど情報を共有している。パンケーキ作りやカンコロ餅を焼く等、おやつ作りを取り入れたり、ノンアルコールビールでお祝い気分を演出したり、誕生会や季節行事の特別メニューなど食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分やカロリー表示で確保できるように支援している。水分が足りない場合、甘い飲み物や冷たい飲み物で対応する。刻み食・ソフト食もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に誘導し歯磨きや介助を行う。洗面所まで行けない方も、さまざまにその方に合わせた対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレを利用できるよう、誘導している。排泄表にてパターンを把握に努めている。床に尿マットを敷いて対応もしている。	日中はトイレで座位排泄を支援している。排泄チェック表を利用者毎に作成し、利用者の状況を把握している。職員は少しでも改善に向けた支援を検討し、利用者の体の動かし方に気を付けたり、時間や仕草を見ながら声かけ誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツやパッド類の使用軽減などの事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表で把握に努め、便秘の方は主治医に相談等を行うが、予防の運動は不十分である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人で入浴するのは危ない方がほとんどなので、時間は決めて入浴していただいている。	毎日入浴を準備している。最低でも週2回入浴するよう声を掛けており、希望に応じ毎日入浴する利用者もいる。入浴しなかった場合は、清拭や足浴で対応している他、入浴拒否時は、無理強いせず時間をずらしたり工夫している。しょうぶ湯や柚子湯を提供したり、入浴中に職員と会話するなど入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	マットレスをレンタルして提供。寄り添ってお話を聞いてみたりする。好きなテレビ番組がある方はテレビを見てくつろげるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加や中止があった時などは、1週間ほど主治医へ報告している。職員間で申送り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やりや、ベランダでの散歩、レクリエーションなどはあるが、一人ひとりの趣味に合わせた気分転換ができていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事での外出の機会は少ない。美容室や食事などは、ご家族の協力で外出できている方もいる。	天候や利用者の体調を見ながら、外出支援している。近所のスーパーへ買い物に出かけたり、気分転換のドライブなど個別に対応している。職員と外食を楽しむ利用者もいる。法事など場所によっては、家族の協力のもと外出している。花見など季節ごとに職員が外出先を企画し、大勢での外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	介護度が高くなるにつれ、自己管理できない方がほとんどになったため、お金は施設で管理している。外出の際は好きなお菓子の買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかけたたり、手紙のやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整や、花や植物をリビングや洗面所に飾るなどの工夫をしている。またトイレに掃除機を置いて清潔を心がけている。	季節を感じるができるよう、行事ごとの飾り付けやテーブルに花を飾っている。また、車椅子の利用者が使いやすい洗面台の扉を外したり、見る人の目の高さに合わせてテレビを配置する等工夫がみられる。室温は職員が管理し毎日掃除しており、居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合う方同士で会話ができるよう椅子の配置を工夫したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やぬいぐるみなどがある。家族の写真を置かれている。転倒に配慮しているが、オムツなどが山積になっている場合がある。	テレビや家具、ぬいぐるみや化粧品等馴染みの物の持ち込みは自由であり、家族の写真を飾る等その人らしい居室となっている。家庭的な雰囲気となるよう、居室の入口には暖簾を着けており、利用者が居心地よく過ごせるよう職員が掃除している。ただし、オムツ、パッド類がそのまま置いてある居室がみられる。	居室の設えとして、また利用者の歩行の妨げにならないよう安全面を考慮し、オムツ、パッド類の保管方法の検討が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内履きの工夫や、歩行器の移動に支障がないよう整頓している。また、できるだけ手すり付きのものを設置し、自力で立ち上がりできるようにしている。		